

災害とコロナから立ち上がるまちづくり

全国山村振興連盟事務局長 實重重実

本年7月21日・22日の両日、北海道東北六県山村振興ブロック会議が宮城県丸森町において開催されました。

丸森町は、東日本大震災からの復旧・復興がまだ終わらなかった2019年10月に、台風19号により、阿武隈川が氾濫し、大規模な災害を受けました。その頃、連日のように丸森町が報道されていたので、ご記憶の方が多いと思います。一部の地域では年間降水量の約半分ほどの量が1日の間に降り、浸水や土砂崩れが発生。死者11名、行方不明者1名、河川の決壊18か所、住宅の床上浸水908世帯などの甚大な被害となりました。

その直後の2020年からはコロナ禍との戦いとなり、町長を始め関係者はコロナ禍の中で苦勞しながら、復旧・復興に努めて来られました。まもなく3年という会議開催の時点では、道路・河川・農地などの応急復旧は一通り終わっていましたが、再び災害が起こることのないようにするための復旧・復興には、まだ少し時間がかかるようでした。

川が氾濫したときの遊水池にするだけでなく平時には親水公園として利用できる河川防災ステーションや、川沿いにあった国道を山側に別ルートとして整備するといった大規模な事業も進められつつあります。町では新雨水ポンプ場や災害公営住宅の整備に尽力されていました。災害からの復旧・復興とコロナ禍の対策・再生という2つの課題に同時に取り組んでいかなければならないのは、大変なことです。

コロナ禍によって 打撃を受けた観光資源にも観光客が戻りつつあり、少しずつ明るい兆しが 見えているようでした。丸森町には蔵の郷土館「齋理屋敷」がありますが、これは江戸時代後期から7代続いた豪商齋藤家の屋敷跡であり、館内12か所の建造物が国登録有形文化財に認定されています。プロジェクト・リーダーの女性は、アメリカから日本に留学し、地域おこしに関わりたいという動機で丸森町に来られたアメリカ人の方で、大変流暢な日本語で齋理屋敷のあちこちについて説明していただきました。その後、8月には3年ぶりに1000基の絵灯籠の明かりを灯す「齋理幻夜」というイベントが開催されたとのことでした。

また丸森町では「阿武隈ライン舟下り」ができるのですが、これは阿武隈川で唯一舟下りができるスポットなのだそうです。阿武隈川について兩岸の名所旧跡やそこに住む魚や鳥、植物についても熟知しておられる船頭さんに、楽しく話を伺いながら川を下ることができました。

コロナ禍は、感染者が増加したり減少したりであって、必ずしも先が見えませんが、人の動きが徐々に活発化することは間違いないでしょうから、災害やコロナ禍を超えて町が活性化していくことを願わずにはられませんでした。